



吉田初三郎：都ホテルを中心とする洛内外名所交通鳥瞰圖

Old capital and hospitality space

「歓待インフラストラクチャー」研究 京都ラウンドテーブル

「古都」の歓待空間を比較する

— 京都と欧米都市 —

趣旨説明

坂野正則 (上智大学)
近世・近代都市の発展と「古都」的性格の生成
<13:00~13:15>

第一部 京都歓待インフラ論の射程：比較古都論への参照軸

第一報告：岩本馨 (京都大学)
よそさんの京都：近世京都と名所案内
<13:20~13:50>

第二報告：日向進 (京都工芸繊維大学名誉教授)
路地奥の「壺中の天」—都市と茶湯の空間—
<13:50~14:20>

第三報告：岸泰子 (京都府立大学)
近世の禁裏と歓待
<14:20~14:50>

ディスカッサントI：鈴木真歩 (岩手県立大学)
近現代アメリカ都市の事例より
<14:55~15:05>

ディスカッサントII：赤松加寿江 (京都工芸繊維大学)
近世・近代イタリア都市・鎌倉の事例より
<15:05~15:15>

第二部 「古都と京都」をめぐる交歓会 (登壇者・共同研究者・ゲストによる対話と交流)

司会：伊藤毅 (東京大学名誉教授)
<15:35~17:00>

終了後に、懇親会

われわれは、人と人との関係性の醸成から、都市文化と空間のダイナミズムを歴史的に考察しようとし、人類が生み出した多様な歓待装置に目を向けることとした。聖性を帯びた宗教的歓待からはじまり、洗練された饗応の技が光る世俗的歓待にいたるまで、そこに潜在する歓待を整える人間や社会集団の心性・規範・戦略・権力の表現を「歓待インフラストラクチャー」と捉え、学際的・領域横断的にその本質にアプローチしようとしている。第二弾のラウンドテーブルでは「古都」の歓待空間を主題にすえたい。

「古都」とは、かつて都がおかれた場所を指す一方、「古くからの都」という言葉もあるように、過去と現代とが途絶されたものではなく、過去の都としての歴史的経緯、その記憶が喚起するブランドやイメージが、ある種のプライドを伴いながら人々（住民と外来者）の間に、独自の心性やアイデンティティを構築していく様をも内包する。それゆえに、「古都」には、固有の「歓待インフラストラクチャー」が生まれやすい土壌があり、そこからその都市の本質に迫れるのではないかと考えた。このラウンドテーブルでは、それぞれの都市の「古都」性について議論してみたい。一般に、「古都」は、空間の面では、首都機能を失った後の公的空間や建造物の変容や転用、市街地の発展と衰退の過程で生まれた都市郊外関係が、独自の都市景観を生み出していく。また社会的な面では、既存の身分・秩序と新興層との相剋や共存、先住者と移住者との間の均衡、旅行者の受容、これらの複雑な人間関係を調整するための社交や交際の技法が成熟する。それは、都（みやこ）がストックしてきた文化的資本と往来する人材を駆動させる契機ともなり、都市文化のありようを左右する。「古都」が完成するためには、宗教的建造物や景勝地のモニュメント性と広域的なツーリズムの成立に支えられた「記憶のブランディング」が必須であり、それが日本とヨーロッパでは、近世から近代にかけて出現する。

日本において「古都」を象徴する都市が京都である。ここに言を俟たない。同時に、「古都」性をもつ都市は、世界中に広がっている。今回のラウンドテーブルでは、建築史や都市史の専門家に集まっていた。ただ、「古都」京都のもつ特性とイメージ（想像界）を自由に議論していただくとともに、国際的比較都市史の視点に京都を位置づける作業を行う。昨年、文化庁が移転し、文化財保存の牙城が構築されると同時に、オーバートゥリズムに悩まされる京都において、「歴史都市との対話」の最適化について落着いた環境で議論してみたい。

申し込みはこちら



2024年7月6日 [土] 13:00~17:00 (開場 12:30)

白沙村荘 橋本関雪記念館 存古楼 [〒606-8406 京都市左京区浄土寺石橋町37]



都市史学会
Society of Urban & Territorial History

文化=空間
構造論 WG
Cultural = Spatial
Structural Theory WG



主催
サントリー研究助成2023年度共同研究
「歓待インフラストラクチャー」から読み解く近世ヨーロッパ都市文化=空間構造の比較研究 (研究代表者：坂野正則)
共催
都市史学会ワーキング・グループ「都市における文化=空間構造から捉える全体史」(文化=空間構造論 WG)
協力
ディオニー株式会社
お問い合わせ
都市史学会「文化=空間構造論 WG」運営事務局 (西日本・京都工芸繊維大学赤松研究室)
akamatsu@kit.ac.jp

Graphic design: Kazuma Masuda